

親子聖書日課

NO.1961 2026.4/26-5/2

名前

[日]大祭司は「一人の人が民の代わりに死ぬ方が好都合だ」と言いました。彼は意識しないまま、主が人々のために死ぬことを預言しました。神は敵対者の計画さえ利用して、贖いの業を成し遂げられます。人を動かしておられるのは、主です。

[月]救いの恵みを知った人は、主に喜ばれることをためらわず行います。弟ラザロの命を救って下さった主に、マリアは「純粋で非常に高価なナルドの香油」自分の持てる最高のものを、最善の時に捧げたのです。私達も惜しみなく主に捧げましょう。

[火]「一粒の麦が死ねば」とは、主の十字架の死のことです。主が身代わりの死を遂げることによって、全ての人は罪と死から救われました。主を信じる私達もまた「一粒の麦」になれます。それは死(葬儀)が、伝道の最大の機会になるからです。

[水]いつか主を信じればよいと思ってはいけません。死という闇が突然、襲うからです。「光のあるうちに」主が語られている今、主を信じましょう。今は救いの日、「光の子になる」絶好の機会です。主を信じるなら、輝いて生きることができます。

[木]主を信じる人は多かったのですが、人を恐れ、人からの誉れを好み、結局、信仰に至りませんでした。今日も同じです。主は命を捨てて、私達を救われました。その救いの恵みに与るためには、神からの誉れだけを求めて、信仰を貫きましょう。

[金]足を洗うのは、奴隷の仕事でした。主が弟子達の足を洗ったのは、人に仕え、「この上なく愛する」ことの模範を示すためでした。相手の汚れた足(罪)でさえ、主に倣って洗う(赦す)時、憎しみが愛に変わるのです。互いに足を洗いましょう。

[土]教会は愛の共同体として、「互いに愛し合う」ことが求められています。その愛は、気の合う者同士の愛ではなく、敵する者ために主が命を捨てるほど大きな愛です。互いに主に愛されているかけがえのない存在として、絶えず愛し合ひましょう。



| | 聖書 | 問題 | 答え |
|----------|--------------|--------------------------------|----|
| 日 | ヨハネ 11:45-57 | 大祭司は預言として、誰が国民のために死ぬと言いましたか。 | |
| 月 | 12:1-11 | マリアは何を主に捧げましたか。 | |
| 火 | 12:12-26 | どんな麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままですか。 | |
| 水 | 12:27-36 | 暗闇に追いつかれないように、何のあるうちに歩くべきですか。 | |
| 木 | 12:36-50 | 彼らは、神からの誉れよりも、誰からの誉れの方を好みましたか。 | |
| 金 | 13:1-20 | あなたがたも、互いに何を洗わなければなりませんか。 | |
| 土 | 13:21-35 | 新しい掟とは何ですか。 | |
| 感想と祈りの課題 | | | |